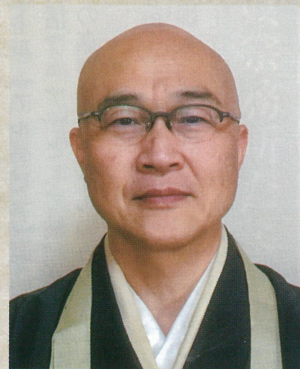


紙上法話

「自分らしく生きる前に」

島根県 訂心寺住職 木村芳典



いつの頃からでしょうか、色々なメディアを通して「自分らしく生きよう」という言葉をよく耳にし、また目にする様になりました。そこには「これからは自分に正直に、ありのままに生きる。そんな自分らしい生き方をしよう」と世間に勧めようとしている意図も感じられます。その勧めに人々も共感し始め、近頃ではそういう生き方が流行にさえなっている観もあります。

それは良いのですが、しかしその「自分らしく生きる」を例えば「周りを気にしないで、自分の思うまま、自由にやってもいいんだ」と解釈して振る舞うと、その人は単なる身勝手な人・無礼な人・反抗的な人にしか映りませんし、そういう人が増えるのは困りものです。

そうではなく、そこには必ず「社会のルールや節度を弁え、相手を尊重し、周りに配慮して」という前提があるはずで、それを守った上でその人らしさを発揮し、活き活きと人生を送られる人が増えるのならば賛成です。

さてそれでは、これからの私達はそういうふう「自分らしく」生きて行かれたらそれで良いのでしょうか……。

昨今、世の中では耳を疑い、胸が痛くなる様な事件が毎日何処かで、そして当り前の様に起きています。それは溢れる程の真偽も定かでない情報に振り回され、惑わされた挙げ句、善悪の判断が付け

られなくなつた人間の所行と言つてもいいのかもしれませんが。

しかしそれは決して他人事ではありません。そうやって知らず知らずの内に善悪の判断を少しずつ鈍らされてしまい、人としての正しい道から外れかけている事に誰も気付いていないかもしれないのです。

芸術家の故岡本太郎氏は生前、

「自分らしくある必要はない。むしろ 人間らしく生きる道を考えてほしい」

という言葉を残されています。

どこか殺伐としてきた世の中で、自分らしく生きるのも確かに結構ですが、でもその前に私達が本当に目指すべき大切な生き方は、氏が言わんとされている様に『人間らしく生きる道』を考え、その道を歩むよう心掛ける、そういう生き方なのではないでしょうか。

では、その人間らしく生きる道とはどんな道なのか？ どんな生き方なのか……？ 時代は変わっても決して変えてはいけない、人としての正しい道・生き方を、釈尊が、両祖が、そして多くの仏祖方が時を超えて常に私達に説き続け、示し続けて下さっています。その尊い説示にしっかりと耳を傾け、「人間らしく」生きる道を学び、身を以てそれに努めていく所にこれからの私達が目指すべき本当の生き方があると思います。